

今号の内容

ページ

- ◆平成 24 年度予算のあらまし 2～5
- ◆定住支援制度 4 月から受付開始ほか 6～7
- ◆住宅用太陽光発電の設置補助制度ほか 8～9
- ◆柳川・みやま消費生活センター開設ほか 10～11
- ◆合併浄化槽の上乗せ補助金継続ほか 12～13
- ◆豆腐づくり体験参加者募集ほか 14～15
- ◆後期高齢者医療保険料の改定ほか 16～17
- ◆市民のひろば (18-19) ◆川柳 (19) ◆図書館・水の郷ニュース、柳川百選まち歩き (20-21) ◆情報わいど (22-27) ◆がんばったね・ぬくもり (28) ◆もちふみデビュー (29) ◆保健ガイド (30-31) ◆新市史抄片 (32)

柳川の国宝

写真は柳川にある国宝、「短刀銘吉光」です。刃長23・2センチ、茎（柄）に入っている部分に作者である吉光の名前が刻まれています。

吉光は、鎌倉時代中期（13世紀）に京都粟田口（現在の京都市東山区）で作刀していた刀鍛冶で、江戸時代には有名な正宗以上の名工とも評価され、短刀作りの名手として知られています。短刀とは、刃の長さが1尺（約30・3センチ）以下の刀のことです。

先がかすかに内側に反った、気品のある姿は、作られた当時のまま変わらず、作者銘もはっきりと残っています。刀の地肌を注視すると、鉄を鍛錬した結果に生じた模様が、目の細かい板目のように見えます。刃の白い部分との境目は真つすぐで、鉄製であることを忘れさせるような

国宝 短刀銘吉光一口（鎌倉時代）



立花家史料館所蔵

特集展示

立花家の刀剣 よくわかる刀剣の見方

- 会期 4月14日(土)～5月27日(日)
- 会場 立花家史料館
- 入園料 (史料館含) 一般500円、高校生300円、小中学生200円
- 内容 国宝「吉光」や重要文化財の剣「長光」などを展示します。【問】御花 ☎73-2189

輝きがあります。この緊張感をほらんだ美しさは、まさに「国の宝」だといえます。しかし、その魅力は見た目だけではなく、短刀がたどってきた歴史にもあるのです。現在、この短刀は柳川藩主立花家伝来品として立花家史料館が所蔵していますが、由来は室町時代（14世紀）に始まります。

ことが確かめられます。つまり、およそ750年前に京都で作られた短刀が、長い年月と距離を超えて430年ほど前に戸次道雪の手元へ渡った記録が残されているのです。道雪の後は、彼の娘・闇千代を正室とした初代柳川藩主・立花宗茂へ伝えられ、柳川藩主立花家で代々大切にされてきたと考えられます。

今、この短刀が柳川に残され、国宝としての輝きを保っているのは、歴史の偶然と、多くの人々による丁寧な管理のたまものです。次世代へ伝える保存管理のために限られた期間しか展示することはできませんが、ぜひ実物をご覧になって、その美しさと歴史の重みをお楽しみいただきたいと思います。

立花家史料館学芸員 坪内広子

華やかに 春の柳川水上パレード

柳川雛祭り・さげもんめぐりのメインイベント「おひな様水上パレード」が3月20日に市内の川下りコースで行われました。おひな様やお肉裏様、着飾った稚児ら約200人が10艘の舟に乗り、沖端をスタート。三柱神社までの約4キロメートルをパレードしました。掘割沿いに詰めかけた観光客や保護者などの声掛けに、稚児たちは笑顔で手を振って応えていました。

人 うごき

平成24年2月末現在

- 人口 71,390 人 (前月比-97)
- 男 33,816 人 (-54)
- 女 37,574 人 (-43)
- 出生 45 人、死亡 82 人
- 転入 95 人、転出 155 人
- 世帯数 24,625 世帯 (-13)

編集後記

●4月は異動の季節。お世話になった先輩たちが勇退された。「やってみせ、言ってみせ」で、させてみせ、ほめてやらねば人は動かじ」とは山本五十六の言。先輩方はこの言葉を実践された。自分も定年までの年数が両手で足りるようになった。先輩方の想いを次代につなげたい。

●「春眠暁を覚えず」とはよく言ったもので、この季節は、朝、布団から出たくないもの。10代のは長時間寝ることが好きな方で、10時間以上寝ていたこともしばしば。でも、今では長く寝ると腰が痛くなり、しょうがなく布団から出るようになった。はあ、あのころに戻りたい。《賢治》